

(90) 福島県郡山の高簾鉦山跡

参考文献(1)を手引きに探査を行った。猪苗代湖の東南にある高簾山(標高968m)の南および西にあり、いくつかの鉦床からなる鉦山であった。高簾山の入山口にもなっており、林道のゲート脇に立っていた案内板には、登山案内も兼ねた、絵入りの地図が描かれ、高簾鉦山跡、および直ぐ側に「分校跡」が明記されていた。このような山間の僻地に、分校があったと言うことは、かつては規模が大きい鉦山であったことを物語っている。しかし、現在では、鉦山地であったことを思い出させるような施設の遺物はほとんど見つけることはできなかった。文献(1)によれば、この鉦山の主要産物は金、銀、銅。鉦床は5カ所。探査の結果、坑口跡1カ所、坑口らしい箇所を数カ所見つけた。

現地への経路は次の通りである。東北道を郡山南ICで降りる。47号線に入り、西行し、直に、右折し、29号線に入り、北上する。右折してから約1km当たりで、左折し支線に入り、西行して行く。道はそのうちに林道となり、ゲートに行き着く。ゲート脇に適当な駐車スペースがある。登山案内板もある。案内板には鉦山跡が明記されている。ここから歩くことになる。図1に示している鉦山跡らしい最初の赤丸の所までは約2時間。なだらかで道の広い林道である。良いハイキング道でもある。ここから左上の赤丸当たりまでは約1時間。途中地滑りで、林道が塞がれているが、適当に乗り越えれば良い。坑口跡、トロッコ等は見つけたが、ズリ跡は見つけられず、肝心の標本は全く採集することはできなかった。探査は4回を数えたが、4回目ようやく坑口跡などを見つけたことができた。鉦山の規模を考えると、探査はまだ不十分である。本探査記、および参考文献(1)を手引きにして、再探査を繰り返せば、鉦山の状況が明瞭となると思う。

探査日 2011年7月、2013年4月、その他

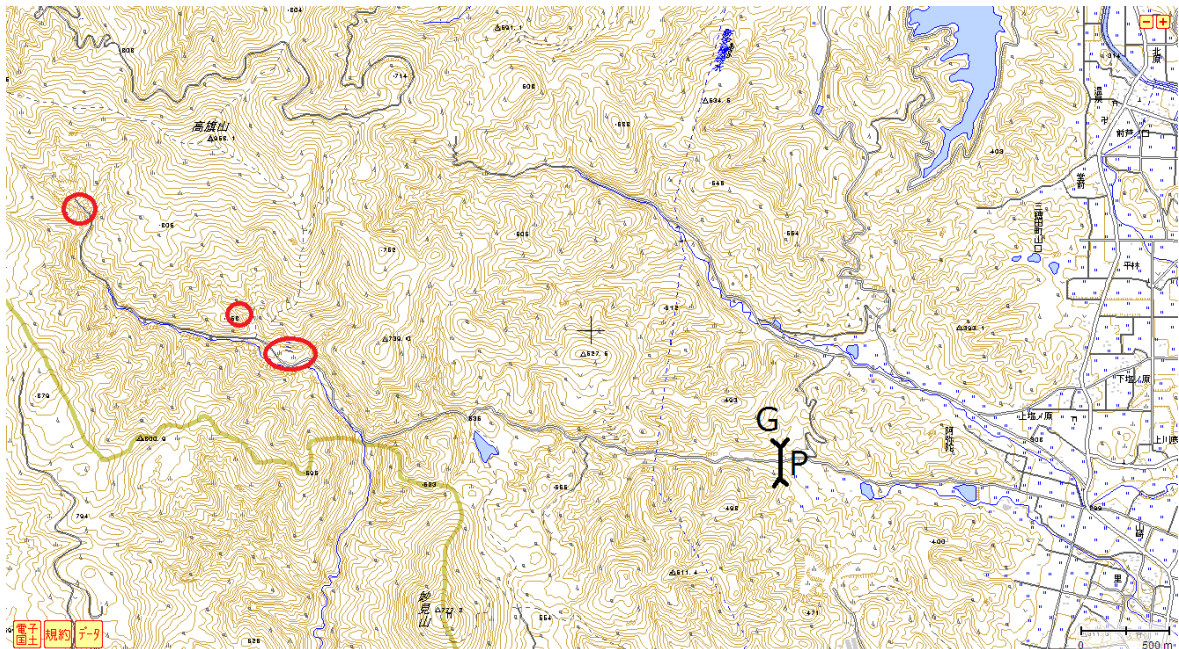


図1 国土地理院の地図サービスホームページより複写掲載。Gが林道のゲート。高簾山への南側からの登山道の入口ともなっている。ゲート前に適当な駐車スペースがある。Pで示している。左側の3つの赤丸が確認した鉦山跡。詳細は図2参照。

図2の説明文。音無川の右岸に沿って、広い林道が延びている。右側の赤丸は段々の平坦地の広い箇所である。コンクリート壁、石垣積みなどがある。鉦山施設の跡か？ この当たりの先で、林道から北に高簾山への登山道が延びている。この登山道の脇の沢を遡っていくと、砂防ダムがあった。黒直線である。砂防ダムの向こう、沢の右側に坑口跡を見つけた。黄緑丸である。内部を覗くと坑道は西の方に伸びていた。音無川を、西にさらに遡って行き、砂防ダムを乗り越えて、さらに先へ進む。左側の赤丸の当たりで、鉦山跡らしいトロッコの遺物を見つけた。さらに先にはいくつかの坑口も見つけた。黄緑丸である。左端の1つの黄緑丸は、ガレ場の斜面上部を、遠望して見つけた、坑口らしい穴である。その右側の2個連結している黄緑丸は古い坑口跡と思われるものである。

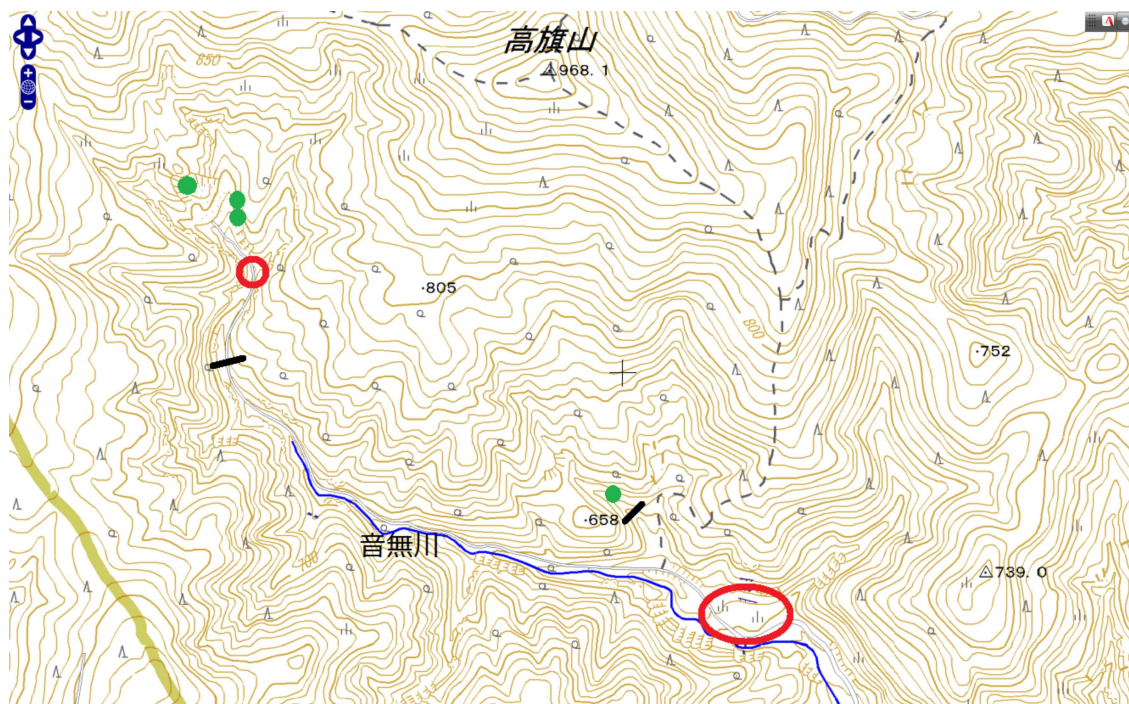
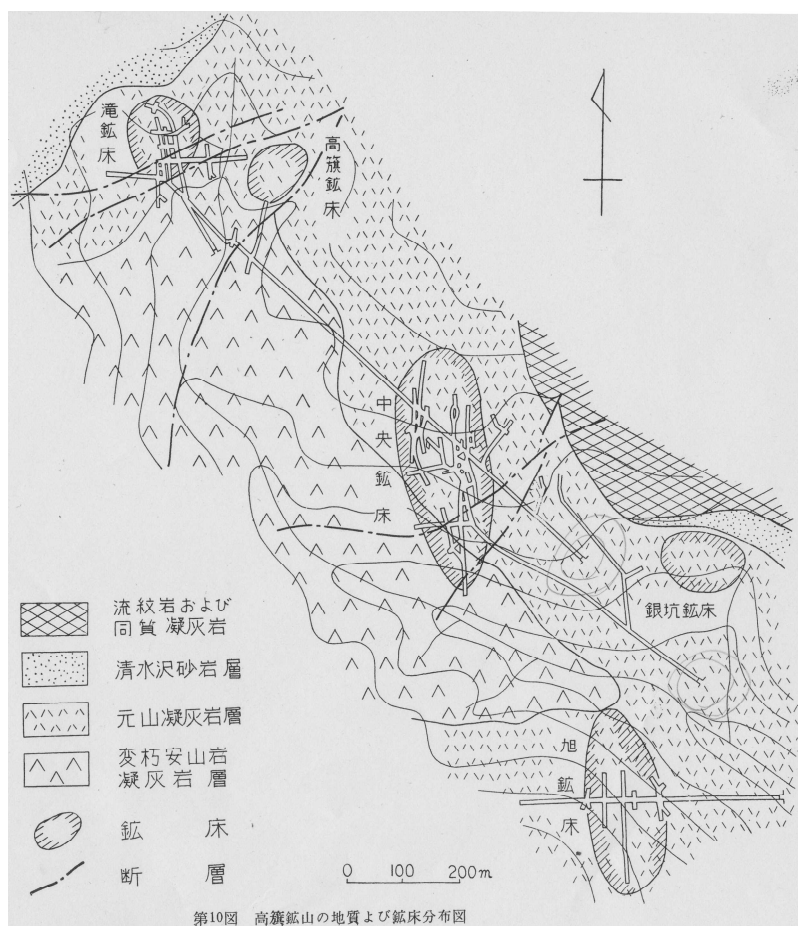


図2 図1の部分拡大図。



第10図 高旗鉾山の地質および鉾床分布図

図3 参考文献(1)の複写掲載。右下から左上に伸びている曲線を音無川と判断した。図中の等高線を図2の等高線と見比べると、非常におおざっぱ出ることがわかる。高旗鉾山として5つの鉾床があることはわかる。今回見つけた坑口の1つは、銀坑鉾床の下にある坑口。トロッコの遺物があったあたりに滝鉾床の坑口があるのかもしれない。旭鉾床の坑口は音無川の対岸にあった。次回には是非探し出したいものである。

鉾山跡写真



写真1 北上してきた29号線。この先、左側に分岐道が伸びている。それに入って、西行して行く。



写真2 林道途中にあるゲート。ここから歩くことになる。この付近に車を駐車することができる。何度も来ているが、一度もゲートが開いていたことは無い。右側に登山案内板が立っている。



写真3 案内看板を近づいて見る。現在地、①登山口、②三和小学校分校跡、③高旗鉾山跡の文字が見える。高旗鉾山には小学校の分校があった。それならば、規模の大きな鉾山であったはずである。



写真3 写真2、3の看板で①登山口と記されている箇所である。



写真4 図2で、・648の文字の上に記した黄緑丸の坑口である。



写真5 写真4で示している坑口の内部。非常にきれいに残っている。坑道は西に延びている。直ぐ先に、レールも残っていた。



写真6 音無川をさらに遡っていった先にある砂防ダム。このあたりまでは林道はしっかりしている。これを乗り越えてさらに更に先へ進む。



写真7 沢を登り詰めていった先にあった錆びたトロツコの遺物。錆びたレール、ガイシ付き電柱等もあった。鋤山跡であったことは確かである。このあたりに坑口があったことが確実であろうが、見つけれなかった。周りの崩れが激しい。



写真8 沢の更に先の山の斜面は、大きなガレ場となっていた。写真の中央あたりに、洞穴の入口のような黒い丸が見える。坑口跡のようである。崩れが激しく近づき難い。

採集鉱物写真

採集物無し

参考文献

(1)「福島県鉱山誌」、福島県、1964年。